



排  
摺  
御  
傘  
寸

特別  
~ 5  
6041  
10





56-4083

袖物法華



湯

繪ふく草末

依其物可  
其意

い新式乃心と法よりきり  
第まらと極相よりなる  
まををさし物やのふりや  
まををさし物物よも  
二句去るるといふ人われ  
まは人ま候をまらぬあり  
ぬらうと極相とせらぬあり  
ふれ道物よりとねらふもの  
し物と法よりとまらぬあり  
乃法なりと法乃まらぬあり

乃々地唯

清心村

右巻のうきと書し  
おの字のハ

官さしれおん備し

あしす

あびす  
あびす

あびすの  
あびすの

秋乃あひもさの各あ  
そはくもさの

乃同もさの

秋乃あひもさの各あ

そはくもさの

あ乃本

難しあ乃本

乃あはる

は

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本

あ乃本



もきつらしくたつるふ船成  
くじ一重よ二句なりをく  
る人ぞし

ひらり

きゑお一月松よとふ  
一船借よのひかりり

独舟の独吟孤独の舟独系  
今二句入一三句入素乃名  
乃獨活ゆその独結回名  
あこひとわとのみ洞よ付て  
もくゆしうの独吟独舟  
あこくおまのむ独乃字よ  
字ま本へ一懸あひひりし  
人備も二文まよひひり二句  
まこ二文まの独のまおひり  
ひりまの付くもくもり

船とひらりよひりへまあ  
ひりよひりよあまの船  
の二句まもそ独もどくと  
よら身も町も場も月ひり  
松ひりりあまの人備よの  
独よ一人よおまの舟を場  
独甲乃月も独りよ二人と  
くりよ三人は同あ但月独  
松ひりりあまの一人二句  
まこ二句まの独のまお  
人備し

一文まよ

ひりりあまの二句

まこ二句まの舟を場  
ひりりあまの一人二句  
まこ二句まの舟を場  
ひりりあまの一人二句





尸ハ妻の日及乃日私其日  
冬日水日並日中門を日  
さむさ日くゆ日く教日を  
えくぬよき日あしき日月  
日く月子日龍湯よん西れ日  
富乃日乃教縁日神り吉か  
意日毎日冬日初やの日  
仏乃日びきの日成りし月星  
あしふい二句きし物日又日  
物附日又附りぬみ日入日日の  
くくぬく日乃星りりくり日  
も日の亮日乃さす日のひり  
りうらる日てゆ日くても  
てゆ日のききしん天よみ朋  
清をりしん天よみ表儀  
し不吉乃初されんじこま

その事ししゆ日さあうら  
日と深かゆ日くやうよあし  
日よ氣をををゆ白能の  
乃日ハ日次月次乃日にあう  
さゆ也月星よの天儀り  
とるきし能龍よのあまも二  
るり一能しつしん天よみ  
ましるるるるるるるるる  
書取ものし

日に登  
はまもいもくゆし  
くは能白能り

よゆる

日乃堂に  
りりりりりりりりりり  
あす不端を

ひ一所の那う今日ゆりあそ  
びよゆへ日よとるを







のけ 日蔭乃鳥 部後しきこ日

まに 時う所しよふこけしきさるを  
ひし 作らしきさるしきさるを  
うし 此事しきし

細 衣敷しおふこし細いひ

あし 衣敷しおふこし細いひ  
ものおけしきさるしきさるを  
衣敷しおふこし細いひ  
しきさるしきさるを  
細しきさるしきさるを  
く物さるしきさるを  
むしきさるしきさるを  
下細いひしきさるを

あし 衣敷しおふこし細いひ  
ものおけしきさるしきさるを  
衣敷しおふこし細いひ  
しきさるしきさるを  
細しきさるしきさるを  
く物さるしきさるを  
むしきさるしきさるを  
下細いひしきさるを







あつた

ひらひらひらひら ひらひらひら

あつた あつた あつた あつた

二つさし

ひらひらひらひら あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

離 ひらひら あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

乃ひらひらひらひら あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

あつた あつた あつた あつた

る海へくれしあちふと  
おふ余あしし作ふり  
るわくく月換ふふふ  
る去連し一旬乃物し  
二旬と所あされし法  
を屋ある理しるれあ  
とりしまう勢急く制  
へふ事にあし

ひやの 初秋乃事あり  
身給ふくれし

ひゆのむやく ちの  
あし冷の字し給らり

ひこま ちんま  
てしむまよら

廣瀬新田日流り 四月日  
日らり

和列よありあし風あ  
新を新給ふ給し

日一し日流り 四月中の  
申一日し

ひと秋酒 ちの  
二旬始し醴乃字し  
あし酒ししあし酒も  
ちの六月朔しち七月  
相元よあり

改魚 ちの  
あしし酒あし





かくかゝりて又紅乃字  
 も二句まじり又紅葉より燈  
 火乃又多あれは流くかあ  
 連歌よ面をさゆへし能得よ  
 七句まじりお葉の何り  
 と秋しらりるむらとあま  
 又紅葉よ二句燈又あは  
 葉ふ意の又よお子神乃  
 細乃らとあま又神乃の  
 積乃の麻敷乃又あはれあま  
 又まを事し人あはれ乃又あ  
 もあろさまはさるるも  
 神乃乃ともあまふんはあ  
 ともまじりて花のともあ  
 たりあれた本乃あまあ  
 てあへし花の又とさるり

あまの白ハあまの又より成  
 神乃ともあはれ乃らとあま  
 又あはれ乃らとあま  
 兼之皆紅葉より二句まじ  
 けはらよ人乃らとあま  
 とあまの紅葉よあまの又  
 あまのあまあはれ乃らとあ  
 やあまをともあまの白乃あ  
 ちあまのあまあはれ乃らと  
 ともあまのあまあはれ乃ら  
 心よあまのあまあはれ乃ら  
 ろららららあまのあまあは  
 けら花れあまのあまあは  
 又を好ららあまのあまあは

又しわをさうとて入へし  
お景の久し紅粉朱丹お七  
場もうしと被ともくわこと  
云りし言鳥乃敷あつこと  
いふしお粉高乃敷黄あつと  
すよ尾はぬさ如お乃敷  
とふふしと入りの字は入  
しともま竹お草の敷とのま  
きうらうは結句付合しとら  
しとるのまらうことさ  
連系お粉高よふとまらう  
ましと末代乃人洋梅屋は  
うらわさゆしはましは  
Pおとくしとてい、お理らり  
ともさ度の家通次あや  
てはささとれさうすやう

うにおもさうらまうをいたの  
はま今おゆしこの式目乃  
まゆもま理とらまらん介  
はま理おしとらゆをさし  
お入をさしとらま理をらんと  
お入へしとらお景しとら連  
よれをゆへしお入の面を  
ゆへし

お景乃橋系  
おし

お景おらりし地をほふ系  
お式あまし

お景乃橋  
おあはれおのしとま  
おあはれおのしとま

お二句しとらお式ひ文をさ  
お





百歳一とく百歳とあへ  
とれも物をさうにゆるそく  
あへ一初初よ百歳とわら  
と二も初初よ百歳とわら  
百歳とあへ百歳乃あの内唯  
とあへ一初初よ百歳とわら

求子

名とのん流われは梁塵秘抄  
の神子の神あ子<sup>あひら</sup>と  
あへ一初初よ百歳とわら  
て冥白あ乃かあは流るる  
はあへ一初初よ百歳とわら  
とわらあも初初よ百歳とわら  
とわらあも初初よ百歳とわら

新武能よあへ一初初よ百歳とわら  
漢物ると今まあへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら

藤の花

あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら

森

あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら  
あへ一初初よ百歳とわら

安<sup>かき</sup>撫<sup>の</sup>も利<sup>り</sup>の<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>文<sup>を</sup>も<sup>の</sup>あ  
ま<sup>れ</sup>し<sup>り</sup>あ<sup>ひ</sup>は<sup>あ</sup>く<sup>は</sup>あ  
あ<sup>ん</sup>く<sup>あ</sup>ら<sup>ふ</sup>詞<sup>を</sup>毒<sup>と</sup>ら<sup>ふ</sup>  
字<sup>を</sup>も<sup>あ</sup>ん<sup>こ</sup>ら<sup>ふ</sup>毒<sup>と</sup>も<sup>毒</sup>  
付<sup>く</sup>も<sup>ら</sup>ほ<sup>し</sup>う<sup>ら</sup>ん  
も<sup>の</sup>も<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>又<sup>毒</sup>種<sup>を</sup>力<sup>を</sup>  
像<sup>と</sup>ら<sup>ふ</sup>の<sup>あ</sup>り<sup>も</sup>種<sup>も</sup>の  
よ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>種<sup>も</sup>も<sup>毒</sup>の<sup>面</sup>を  
為<sup>へ</sup>ら<sup>う</sup>こ

あ<sup>ま</sup>と<sup>川</sup>お<sup>の</sup>の<sup>り</sup>し<sup>も</sup>り<sup>と</sup>  
う<sup>ら</sup>し<sup>よ</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>こ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>二<sup>句</sup>  
物<sup>を</sup>し

う<sup>ら</sup>ん<sup>物</sup>し<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>も<sup>も</sup>  
但<sup>し</sup>種<sup>の</sup>毒<sup>も</sup>よ

用<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>ら<sup>れ</sup>し<sup>二</sup>句<sup>物</sup>

も<sup>ら</sup>う<sup>こ</sup>し<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>物<sup>を</sup>し<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>六<sup>句</sup>物<sup>を</sup>  
お<sup>は</sup>ら<sup>う</sup>こ<sup>ら</sup>う<sup>し</sup>り<sup>り</sup>二<sup>句</sup>物<sup>を</sup>  
又<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>こ<sup>ら</sup>う<sup>し</sup>り<sup>り</sup>六<sup>句</sup>物<sup>を</sup>  
と<sup>ら</sup>ん<sup>こ</sup>ら<sup>う</sup>し<sup>り</sup>り<sup>り</sup>六<sup>句</sup>物<sup>を</sup>  
う<sup>ら</sup>し<sup>よ</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>こ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>二<sup>句</sup>  
と<sup>ら</sup>ん<sup>こ</sup>ら<sup>う</sup>し<sup>り</sup>り<sup>り</sup>六<sup>句</sup>物<sup>を</sup>  
と<sup>ら</sup>ん<sup>こ</sup>ら<sup>う</sup>し<sup>り</sup>り<sup>り</sup>六<sup>句</sup>物<sup>を</sup>  
と<sup>ら</sup>ん<sup>こ</sup>ら<sup>う</sup>し<sup>り</sup>り<sup>り</sup>六<sup>句</sup>物<sup>を</sup>

も<sup>ら</sup>う<sup>こ</sup>し<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>二<sup>句</sup>物<sup>を</sup>

あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>人<sup>を</sup>備<sup>へ</sup>し<sup>遊</sup>ぶ<sup>の</sup>は<sup>あ</sup>ま<sup>の</sup>  
あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>  
今<sup>も</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>

あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>  
あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>娘</sup>







の糞よあゝ作居るやあゝ  
と実をここのりあやの糞  
実を實乃戸の居はよ二句  
とへーあや記あるをせくと  
実を糞をこむる実より物  
をせくと洞をせくとあゝの居  
あゝあゝの洞をせくと水と  
とと糞をせくとあゝの居  
とととと一居よ二句と実の  
あゝのあゝあゝも二句乃内  
實乃實よの面を糞と居る  
と糞よ糞よ糞よ二句と  
実のあゝのせとよ付くとも不  
管但らとんとあゝよ糞よ  
ハミよ糞よ糞よ糞よ糞よ  
ハ山よ糞よ糞よ糞よ糞よ

山

天竺乃あゝの山敷よ  
たゝの居難く白神よ  
依くとあゝの居と山敷  
あゝの居とあゝの山敷  
あゝの居と山敷よあゝの居  
事と中又糞と山敷よあゝ  
ととととと

山

あゝの居と  
あゝの居と  
あゝの居と  
あゝの居と  
あゝの居と

あゝの居と  
あゝの居と  
あゝの居と  
あゝの居と  
あゝの居と

とくせんちくしつ回

あ

珍虫

秋に蛸蛸よの二百を  
珍虫

すこし

まの驚詞し  
まのまのあわ

うよあはれはくしこもま

とくし

連まのりいあ  
ひつしつ物事

蛸蛸よのまよまを林よ二蛸蛸

とあまのりいあまをわとく

ひつしつ又まをまをま

役をまをまをまをま

蛸蛸よのまよまをまをま

しつれまをまをまをま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま

まのまのまのまのま



ク柔く二句をよみて人  
業のとうけくも世の字  
よ二句今も二句人偏し

男を捨つに世を捨つ時ハ

捨つを始し連よるは  
抛りい面くわと去るを  
るれとも男を捨つと世を  
捨つも同神乃句るれと  
おろしわ子実あくふた  
ひ命子を捨つ家ととも  
室とともつるあつる句  
も連懐るつと世を捨つ  
男を捨つ捨乃字よ捨つ  
を去へし連懐るつ寸を  
二句とく

次戸

非乃名るれとも水  
色くし次戸のと燈  
ハ非水也

硯水

水色よりあつる  
硯連よ一われし抛  
ハ硯屏又あおの硯海とく  
とくとも一まへし硯乃字  
はく縁とも松陰をゆひん  
さきさきとる名乃硯よ  
をさきとる名乃硯よ  
硯海とく面くつとくを

珍麻海

山勢よりあつる  
珍麻乃実同あ  
珍麻とくわも飛乃名  
まてし山勢よあつるの



多し形或ふ不常田さる候と  
あはれし今お難し

ね撲 秋もあまの候とらふ  
はらふ乃らまはし書  
字ふあふらりるく濁へ  
と月書あふ七月乃下旬  
ふまふ事し

とと海しき

丁二あふん  
白も秋も

白く冷しき連よ二あれし  
能よの冷物とて秋あひひく  
三白とて冷泉院冷泉  
所あふらりる海しき  
つありと白まふし  
不持ゆへしこのあらし水也

巻

吾あし連りるあふ  
能よの約巻玉とあれ

候よ巻巻は巻又巻中  
とて巻よ巻と巻と巻と  
あれあらしと巻と巻と  
乃巻よ又白巻と巻と  
ぬと巻もあらしと巻と  
二白まふ

扱乃る

吾あし扱乃る  
扱と連よ扱と

扱乃扱と扱と二白あれし  
扱よの扱と扱乃扱と  
扱も扱と扱と扱と扱と  
扱と扱と扱と扱と扱と  
扱乃名の扱原は人物  
あらし扱扱扱扱扱扱





同松之海松浦よりいふ所  
もろわあき種物よあきさる  
りしりあか何善ん松之海を  
浦ハその所ふ松ありしもこ  
え守りあき善んり乃らあきり  
し種物乃松山末乃松山  
松ありしりし種物一切の  
名ふよび種物ととらふ  
ふまふ善んものし

と物との

山歌ふあき守るん  
種物よ二句端とん

流あり種物とと種物山歌  
あきてもとん一はあきんを  
案とれし松山乃とそり  
あき種物ととりしりし  
種物のすそしりし

東歌と種物あきり  
山乃海のいあきんを  
いひ種物のすそはあきんを  
つと種物二りしりし  
種物と併種物よのい  
しあひされし種物しり  
て種物すそと末と  
二句まし下の名よハ下種物  
くゆいよと白きとあきんを  
乃計の事しと種物しり  
のさしとと種物の類下  
よハ二句ましすそと  
種物をさるし一圓乃ら  
種物しりしと種物しり  
しと種物しりしと種物しり  
種物しりしと種物しり

下しすそとらうに發せし直  
まてしすそこの聲よら二句傳へ  
一末聲しつゝあかも傳へしす

水色と水色 とうきし

例 あち 二今まらひくあやうへ  
まほのまほのまほのまほ

信者乃神 くらあし水色と  
うははくさる

あつとらふはあすつと  
まき乃深乃深し名は  
あつとらふはあすつと  
すも新式の名神也あ  
らふはあすつとらふはあ  
す

後乃海 とらふ 二句傳へ名は  
乃あかも傳へしす

と句傳へしす乃海の  
うらうらうはあすつと  
らふはあすつとらふはあ  
す

雲乃水 とらふ 二句傳へ名は  
乃あかも傳へしす

と句傳へしす乃海の  
うらうらうはあすつと  
らふはあすつとらふはあ  
す



とくろり

慶安四曆初秋  
三條通菱屋町  
林甚右衛門板

年

